

学校法人身延山学園 平成25年度財務比率表

1) 消費収支計算書より

比率	計算式	25年度	
人件費比率	人件費/帰属収入	67.58%	平均値(51.6%) 恒常的な定員割れによる学納金収入の低調が、分母である帰属収入を引下げている。このため、他大学に比し、見劣りする給与額(人件費)にもかかわらず平均値を超過した高数値が継続している。 【評価】低い値がよい
人件費依存比率	人件費/学生生徒等納付金	244.81%	平均値(111.1%) 恒常的な定員割れにより学納金収入が低調であるため、他大学に比し、見劣りする給与額にもかかわらず平均値の2倍超となる高数値が継続している。 【評価】低い値がよい
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	22.23%	平均値(31.5%) 帰属収入については前述のとおり。財務状況悪化により全ての支出削減を継続中であり、教育研究経費もやむなく削減している。このため、平均値を下回る数値となった。 【評価】高い値がよい
管理経費比率	管理経費/帰属収入	13.37%	平均値(10.4%) 帰属収入については前述のとおり。財務状況悪化により管理経費も削減しており、業務運営上最低限の支出に止めているが、平均値を超過した数値となった。分母が小さいこともあるが、支出の見直しが必要。 【評価】低い値がよい
消費収支比率	消費支出/消費収入	114.11%	平均値(106.0%) 消費収入の不調を消費支出削減でカバーしきれず、平成10年度以降支出超過の状態が継続中である。 【評価】低い値がよい
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/帰属収入	27.61%	平均値(46.5%) 前述のとおり学納金収入が低調であることから、本数値は平均値を大幅に下回った。自主財源を確保し、本数値を引き上げることが当学園の最重要課題である。 【評価】どちらとも言えない
寄付金比率	寄付金/帰属収入	33.30%	平均値(18.9%) 当学園は設置母体である身延山久遠寺から、学納金収入、補助金収入を上回る大口寄付金を毎年安定的に受領している。これにより本数値は平均値に倍する数値となっている。 【評価】高い値がよい
補助金比率	補助金/帰属収入	31.53%	平均値(12.3%) に倍する高数値であるが、学納金を始めとした収入全般が少ないための、結果としての高数値であり、自主財源の脆弱さを示している。 【評価】高い値がよい
基本金組入率	基本金組入額/帰属収入	9.47%	平均値(8.0%) 帰属収入からどれだけ基本金に組入れたかを示す比率である。100%組入れを行った。 【評価】高い値がよい
減価償却費比率	減価償却額/消費支出	10.15%	平均値(13.4%) 消費支出のうちの減価償却費の割合を見る比率。消費支出とされているものの実質的には消費されずに蓄積される資金の割合を示すもの。 【評価】どちらとも言えない
帰属収支差額比率	帰属収入－消費支出/帰属収入	-3.30%	平均値(2.5%) が示すとおり小規模私学の収支状況は総じて厳しいが、当学園はさらに厳しく経常的に消費支出が帰属収入を上回っている。学納金増加、寄付金増加に何が必要か原点に立ち返り、検討する必要がある。 【評価】高い値がよい
借入金等利息比率	借入金等利息/帰属収入	0.04%	平均値(0.3%) 借入金は138百万円であり資産規模に比較して少なく、さらに、利息支払を伴う借入金にいたっては4百万円であることから平均値を下回ることができた。 【評価】低い値がよい

1)貸借対照表より

比率	計算式	25年度	
固定資産構成比率	固定資産/総資産	99.01%	平均値(82.1%) 支出が収入を上回る状態が継続しており従来からの手元の流動性資産で凌いでいる状況。流動性資産の減少が結果として固定資産割合を押し上げている。 【評価】低い値がよい
流動資産構成比率	流動資産/総資産	0.99%	平均値(17.9%) 上記の理由により流動性資産が過減。このため本数値低水準を継続している。 【評価】高い値がよい
固定負債構成比率	固定負債/総資金	4.50%	平均値(5.0%) 長期借入金が少なく、平均値を下回った。 【評価】低い値がよい
流動負債構成比率	流動負債/総資金	3.12%	平均値(4.8%) 短期借入金、前受金等の流動負債額は小さく平均値を下回った。 【評価】低い値がよい
自己資金構成比率	自己資金/総資金	92.38%	平均値(90.2%) 負債が少なく数値的には平均値を上回るも、算式の構成要素である消費支出差額がマイナスであり実力以上の数値となっている。 【評価】高い値がよい
消費収支差額構成比率	消費収支差額/総資金	-44.06%	平均値(-14.0%) が示すとおり、小規模地方私立大学では消費収支差額がマイナス計上となる大学が多いが、当学はその3倍を計上している。集金力の弱さによるものである 【評価】高い値がよい
固定比率	固定資産/自己資金	107.18%	平均値(91.0%) 消費支出超過が自己資金数値を引下げている。自己資金のみで固定資産をまかないきれず、不足分を負債でカバーしている状況。 【評価】低い値がよい
固定長期適合率	固定資産/自己資金+固定負債	102.20%	平均値(86.2%) 100%以下で低いほど良いとされる指標。自己資金、固定負債で固定資産をまかなえておらず、一部流動負債でカバーしている。長期化するとキャッシュフロー不足となる。 【評価】低い値がよい
流動比率	流動資産/流動負債	31.59%	平均値(375.2%) 平均値と大幅に乖離している。短期的な支払能力に著しく劣るものであり、流動資産が固定化している。 【評価】高い値がよい
総負債比率	総負債/総資産	7.62%	平均値(9.8%) 固定負債・流動負債等他人資金が少なく本数値は良好である。但し、今後キャッシュフロー不足による借入れ等も予想され、本数値の悪化が懸念される。 【評価】低い値がよい
負債比率	総負債/自己資金	8.25%	平均値(10.8%) 負債(借入れによる他人資金)が少なく本数値は良好。但し、上記理由による本数値の悪化が懸念される。 【評価】低い値がよい
前受金保有率	現金預金/前受金	12.90%	平均値(48.97%) キャッシュフロー不足から、前受金として受取った現金預金が流動性資金として費消されたことにより本数値が低下している。 【評価】高い値がよい
退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金(資産)/退職給与引当金	464.88%	平均値(51.5%) 従来からの積み立てにより引当金以上の特定預金を計上。 【評価】高い値がよい
基本金比率	基本金/基本金要組入額	100.00%	平均値(94.9%) 上限100%を計上している。 【評価】高い値がよい
減価償却比率	減価償却累計額(除図書)/減価償却資産取得額(除図書)	48.30%	平均値(51.2%) *減価償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合である。資産取得年次が古いほど又は耐用年数を短期間に設定しているほどこの比率は高くなる。 【評価】どちらも言えない

*総資金＝負債＋基本金＋消費支出差額

*自己資金＝基本金＋消費支出差額